



2020年3月期 第3四半期 連結決算概況と通期見通し



オリンパス株式会社 | 執行役 CFO 境 康 | 2020年2月6日

(スライド1)

- オリンパスの境です。
- ご多忙の中、オリンパス株式会社「2020年3月期 第3四半期決算電話会議」にご参加いただき誠に有難うございます。
- それでは早速、決算概況についてご説明申し上げます。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

ハイライト

第3四半期累計実績

連結

- ☑ 売上高： 医療分野を中心に好調に推移し、為替を除く実質ベースで6%増収
- ☑ 営業利益： 過去最高となる785億円。各段階利益で大幅な増益を達成
 - ✓ 販管費は前年同期比262億円減、販管費率は5.7pt改善し、49.8%

セグメント別

- ☑ 医療分野： 中国の高い売上成長（+31%）が牽引し、過去最高の売上高、営業利益を計上
- ☑ 科学事業： 過去最高の営業利益を更新

業績見通し

- ☑ 第3四半期までの進捗を踏まえて、売上高、営業利益を上方修正

(スライド3)

- 今回の決算における主なポイントです。
- 第3四半期の累計実績は、医療分野を中心に好調に推移しました。
- 売上高は、為替を除く実質ベースで6%の増収となりました。
- 営業利益は第3四半期累計として過去最高となる785億円を計上する等、各段階利益で大幅な増益を達成しております。
- 販管費は、前年同期比で262億円減少しました。
- その結果、販管費率は49.8%となり、前年同期で5.7pt減と大幅に改善しました。
- これは、現在、取り組んでいる全社的な効率改善のプログラム「Transform Olympus」により、従業員のマインドが着実に変化していることの現れだと考えています。
- セグメント別で見ますと、医療分野は、高い売上成長が継続している中国が牽引し、3Q累計、3Qともに過去最高の売上高および営業利益を計上しました。
- 科学事業も過去最高の営業利益を更新しております。
- 通期業績見通しにつきましては、第3四半期までの進捗を踏まえて、売上高および営業利益を上方修正しております。

01

2020年3月期 第3四半期 連結業績および事業概況

(スライド4)

- それでは、第3四半期の決算概況について、詳しくご説明申し上げます。

2020年3月期 第3四半期実績 ①連結業績概況

- 1** 売上高： 内視鏡事業、治療機器事業および科学事業が堅調に推移し、増収（為替影響除き+6%）
2 営業利益： 販管費の効率化の順調な進捗と前年同期の一時費用の減少により、3Q累計として過去最高を達成

| (単位：億円) | 第3四半期累計実績 (4-12月) | | | | 第3四半期実績 (10-12月) | | | |
|---|-------------------|-------------------------|-------|---------|------------------|------------------|-------|---------|
| | 2019年3月期 | 2020年3月期 | 前年同期比 | 為替影響調整後 | 2019年3月期 | 2020年3月期 | 前年同期比 | 為替影響調整後 |
| 売上高 | 5,810 | 1 5,951 | +2% | +6% | 1,992 | 2,059 | +3% | +8% |
| 売上総利益 (売上総利益率) | 3,784 (65.1%) | 3,809 (64.0%) | +1% | +5% | 1,296 (65.0%) | 1,303 (63.3%) | +1% | +6% |
| 販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率) | 3,225 (55.5%) | 2,964 (49.8%) | ▲8% | ▲6% | 1,102 (55.3%) | 997 (48.4%) | ▲10% | ▲7% |
| その他の収益および費用等 | ▲353 | ▲61 | - | - | ▲18 | ▲31 | - | - |
| 営業利益 (営業利益率) | 206 (3.5%) | 2 785 (13.2%) | +281% | +322% | 176 (8.8%) | 275 (13.4%) | +57% | +79% |
| 税引前利益 (税引前利益率) | 136 (2.3%) | 742 (12.5%) | - | - | 164 (8.2%) | 256 (12.4%) | +57% | - |
| 親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率) | 65 (1.1%) | 591 (9.9%) | - | - | 120 (6.0%) | 231 (11.2%) | +92% | - |
| EPS | 5円 | 45円 | - | - | - | - | - | - |
| 円/USドル | 111円 | 109円 | - | - | 113円 | 109円 | - | - |
| 円/Euro | 129円 | 121円 | - | - | 129円 | 120円 | - | - |
| 円/CNY | 17円 | 16円 | - | - | 16円 | 15円 | - | - |

(スライド5)

- こちらは連結業績の概況となります。
- 第3四半期累計の連結売上高は医療分野、科学事業が堅調に推移し、前年同期比で2%増収の5,951億円となりました。
- 為替を除く実質ベースでは、6%増収となり、大きく売上を伸ばしました。
- 営業利益は、売上を伸ばしている中でも、販管費の全社的な効率化が順調に進捗していることや一時費用の減少により大幅な増益を達成し、過去最高を更新しました。
- 当期利益は、営業利益が大幅な増益となった結果、591億円となりました。

2020年3月期 第3四半期実績 ②セグメント別概況

- 1** 内視鏡： 増収および販管費の効率化等により、前期の一時費用（97億円*）を除いても、大幅な増益を達成
- 2** 治療機器： 全領域売上が順調に推移し、増収増益
- 3** 科学： 生物顕微鏡、産業製品の売上増加と販管費の効率化により、3Q累計として過去最高の営業利益
- 4** 映像： 前年同期の一時費用が減少し、損益は改善

| 第3四半期累計実績（4-12月） | | | | | 第3四半期実績（10-12月） | | | | |
|------------------|----------|----------|--------------|---------|-----------------|----------|-------|---------|-------|
| 単位：億円 | 2019年3月期 | 2020年3月期 | 前年同期比 | 為替影響調整後 | 2019年3月期 | 2020年3月期 | 前年同期比 | 為替影響調整後 | |
| 内視鏡 | 売上高 | 3,038 | 3,151 | +4% | +8% | 1,030 | 1,083 | +5% | +10% |
| | 営業利益 | 658 | 1 916 | +39% | +48% | 242 | 318 | +31% | +43% |
| 治療機器 | 売上高 | 1,606 | 1,636 | +2% | +6% | 558 | 556 | 0% | +4% |
| | 営業利益 | 208 | 2 225 | +9% | +15% | 77 | 73 | ▲5% | +5% |
| 科学 | 売上高 | 732 | 766 | +5% | +8% | 259 | 269 | +4% | +8% |
| | 営業利益 | 50 | 3 80 | +62% | +79% | 22 | 26 | +22% | +48% |
| 映像 | 売上高 | 383 | 347 | ▲9% | ▲6% | 127 | 134 | +6% | +10% |
| | 営業損益 | ▲131 | 4 ▲74 | +58億円 | +61億円 | ▲39 | ▲17 | +22億円 | +21億円 |
| その他 | 売上高 | 50 | 50 | ▲1% | ▲1% | 18 | 16 | ▲9% | ▲9% |
| | 営業損益 | ▲22 | ▲18 | +4億円 | +4億円 | ▲8 | ▲5 | +3億円 | +3億円 |
| 全社・消去 | 営業損益 | ▲556 | ▲344 | +212億円 | +211億円 | ▲117 | ▲120 | ▲3億円 | ▲3億円 |
| 連結合計 | 売上高 | 5,810 | 5,951 | +2% | +6% | 1,992 | 2,059 | +3% | +8% |
| | 営業利益 | 206 | 785 | +281% | +322% | 176 | 275 | +57% | +79% |

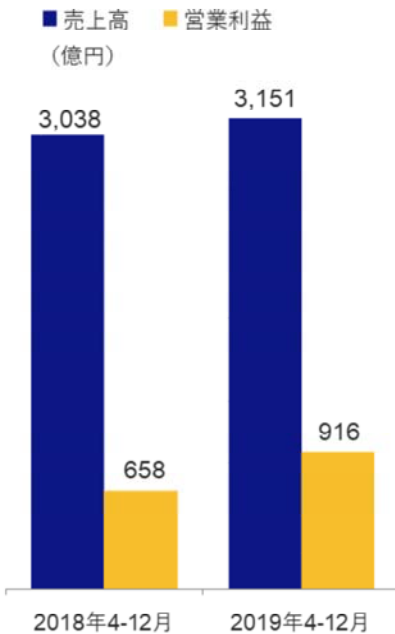
Page 6 2020年3月期 第3四半期 連結決算概況と通期見直し *米国司法省との司法取引締結に伴う費用

OLYMPUS

(スライド6)

- 各セグメントの概況につきましては、次のスライドより、詳しくご説明いたします。

2020年3月期 第3四半期実績 ③内視鏡事業



売上高 中国の高い売上成長 (+37%) を主要因として、海外が好調に推移し、増収 (為替影響除き+8%)

営業利益 増収および販管費の効率化により、大幅な増益

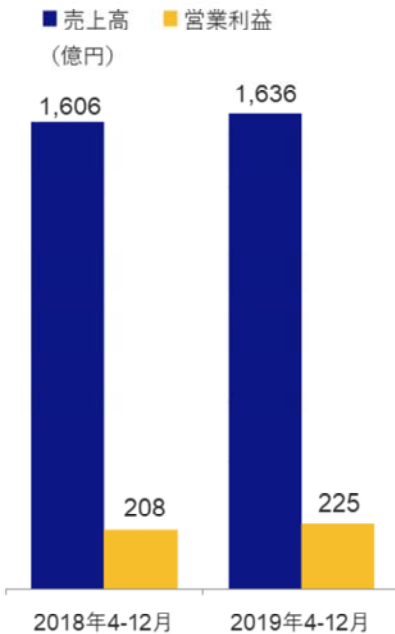
| 単位: 億円 | 第3四半期累計実績 (4-12月) | | | | 第3四半期実績 (10-12月) | | | |
|---------|-------------------|--------|-------|---------|------------------|--------|-------|---------|
| | FY2019 | FY2020 | 前年同期比 | 為替影響調整後 | FY2019 | FY2020 | 前年同期比 | 為替影響調整後 |
| 売上高 | 3,038 | 3,151 | +4% | +8% | 1,030 | 1,083 | +5% | +10% |
| 営業利益 | 658 | 916 | +39% | +48% | 242 | 318 | +31% | +43% |
| その他の損益* | ▲69 | ▲6 | - | - | 1 | ▲4 | - | - |
| 営業利益率 | 21.6% | 29.1% | | 29.7% | 23.5% | 29.3% | | 30.6% |

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

(スライド7)

- まず内視鏡事業です。
- 内視鏡事業を力強く牽引している中国に加え、政府主導のがん予防プロジェクトが進行するロシアなど、海外が好調に推移し、売上高は前年同期比4%増の3,151億円となりました。
- 為替を除く実質ベースでは、第3四半期累計では8%の増収、第3四半期だけ見ますと10%成長と、高い売上成長を実現しました。
- 営業利益は、増収と販管費の効率化により、前年同期比39%増の916億円、営業利益率は29.1%となりました。
- 前年同期の米国司法省との司法取引契約締結に伴う費用97億円を加味しても、前年同期比21%増となる大幅な増益を達成しています。

2020年3月期 第3四半期実績 ④治療機器事業



売上高 処置具をはじめとして全領域で売上を伸ばし、増収（為替影響除き+6%）

営業利益 増収を主な要因として、増益（為替影響除き+15%）

| 単位: 億円 | 第3四半期累計実績 (4-12月) | | | | 第3四半期実績 (10-12月) | | | |
|---------|-------------------|--------|-------|---------|------------------|--------|-------|---------|
| | FY2019 | FY2020 | 前年同期比 | 為替影響調整後 | FY2019 | FY2020 | 前年同期比 | 為替影響調整後 |
| 売上高 | 1,606 | 1,636 | +2% | +6% | 558 | 556 | 0% | +4% |
| 営業利益 | 208 | 225 | +9% | +15% | 77 | 73 | ▲5% | +5% |
| その他の損益* | 0 | ▲11 | - | - | ▲1 | ▲4 | - | - |
| 営業利益率 | 12.9% | 13.8% | | 14.1% | 13.7% | 13.2% | | 13.9% |

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

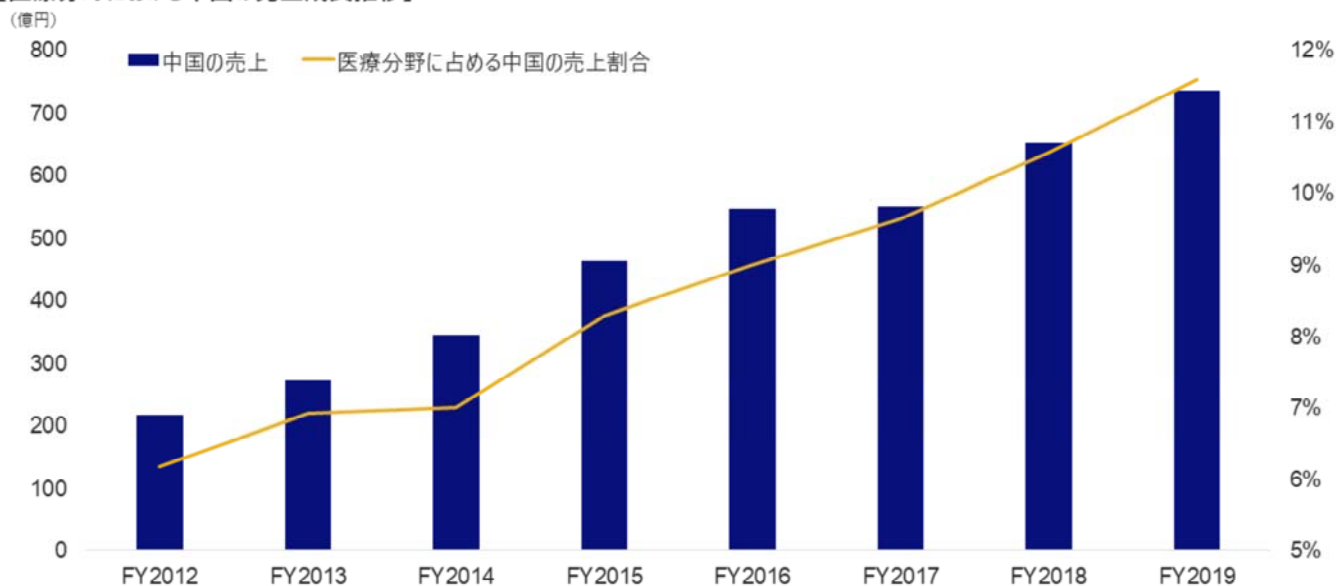
(スライド8)

- 治療機器事業です。
- 各地域のニーズを捉えた製品を拡販している消化器関連処置具や軟性鏡の販売が好調に推移している泌尿器科など、全領域において売上を拡大し、売上高は、前年同期比2%増の1,636億円となりました。
- 為替を除く実質ベースでは、6%の成長を実現しています。
- 営業利益は、増収を主な要因として、前年同期比9%増の225億円、営業利益率は13.8%となりました。

高い成長が続く中国市場

医療分野の売上における中国の割合は急速に拡大し、現在は医療分野の約12%を占める

【医療分野における中国の売上成長推移】



Page 9 2020年3月期 第3四半期 連結決算概況と通期見通し

OLYMPUS

(スライド9)

- ここで、近年、二桁成長が続き、医療分野の成長を大きく牽引している中国市場について詳しくご説明します。
- 当社は約50年前から中国市場に進出し、現地の医師との信頼関係を構築しながら、ビジネスを展開してきました。
- 2012年3月期と比較しますと、2019年3月期は中国市場の売上は約3.5倍、医療分野に占める割合も約2倍となり、今や医療分野の約12%の売上を占めています。
- 中国は成長ドライバーとして、医療分野の飛躍を支えていることがお分かりいただけると思います。
- 次のスライドで、これまでの目覚ましい成長の背景、そして、今後のポテンシャルについてご説明いたします。

中国市場が好調な要因

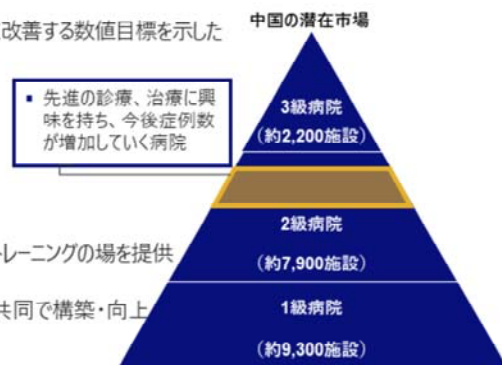
中国政府の政策の後押しもあり、2級病院への販売が増加し、中国の成長が加速

政策

- ☑ 「衛生事業発展第12次5か年計画」を発表（2011年～2015年）
 - ✓ 末端の医療衛生機関の標準化を進め、県級医院等の医療水準の向上を目指した
- ☑ 「健康中国2030」を発表（2016年）
 - ✓ 予防医療を強化する方針を打ち出し、重点項目の1つとして「重大疾病の予防」を掲げた
- ☑ 「衛生事業発展第13次5か年計画」を発表（2016年～2020年）
 - ✓ 慢性疾患とがんの発生率の高い地域で、主要ながんに対する早期診断率を55%にすることを旨す
- ☑ 「健康中国実施行動意見」を発表（2019年）
 - ✓ 早期診断・治療を促進し、がんの5年生存率を2022年に43.3%以上、2030年には46.6%以上に改善する数値目標を示した
- ☑ 「県級病院総合能力レベルアップ計画」を発表（2019年）
 - ✓ 国家衛生健康委員会医政医管局が500の県級病院と500の中医病院を三級病院又は三級中医病院と同等の医療水準に引き上げることを目指す

オリンパスの取り組み

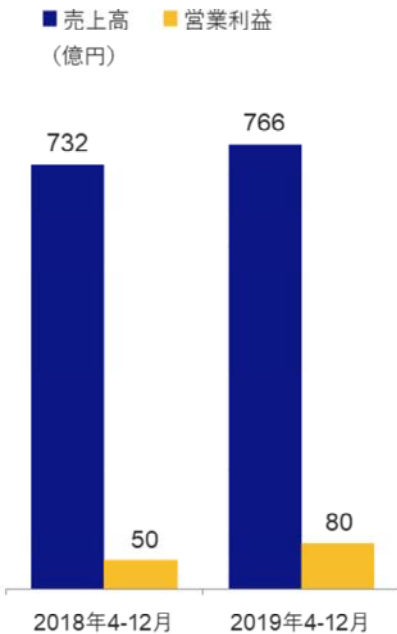
- ☑ 内視鏡医の育成サポート
 - ✓ 北京、広州、上海に自社トレーニング施設、病院内に共同トレーニング施設を保有し、医師のトレーニングの場を提供
- ☑ 病院・学会との連携
 - ✓ 約50年前に市場参入した信頼関係を生かし、病院、学会と連携し、地域の医療環境を共同で構築・向上



(スライド10)

- 中国では病院の等級によって医療水準に開きがあり、大病院、すなわち3級病院に患者さんが集中する傾向があります。近年この状況を解消することを目的として、様々な施策が展開されてきました。
- まず、2011年に中国国務院が「衛生事業発展第12次5か年計画」を発表し、末端の医療衛生機関の標準化を進め、県級医院等の医療水準を向上させることを目指しました。
- 2016年には国民の健康を改善するための戦略として「健康中国2030」、「衛生事業発展第13次5か年計画」が発表され、予防医療を強化する方針が打ち出されました。
- 特定の地域におけるがんの早期診断率に加え、がんの5年生存率を改善するため、早期診断、早期治療を推進しています。
- また2019年に発表された「県級病院総合能力レベルアップ計画」があります。500の県級病院と500の中医病院を三級病院又は三級中医病院と同等の医療水準に引き上げることを目指す方針です。
- 国家レベルでの予防医療強化の流れに合わせ、2級病院においても新たに予算が付与され、病院の新設や設備投資が積極的に行われるようになり、当社の医療分野、特に内視鏡事業の高い成長につながっています。
- 1972年、日中国交正常化の年に初めて中国で当社の胃カメラが使用されて以来、当社は他社に先駆けて中国での事業基盤を強化してきました。
- 今後も、長年に渡って培った信頼関係を生かし、トレーニングを通じた内視鏡医の育成サポートや病院・学会との連携を積極的に行っていくことで医療分野のさらなる成長を実現していきたいと考えております。
- なお、足元では新型コロナウイルスの事業活動への影響が想定されますが、政策を追い風とした内視鏡医療に対する需要拡大の流れに変わりはなく、長期的な成長機会を着実に捉えていきたいと思っております。

2020年3月期 第3四半期実績 ⑤科学事業



☑ 売上高

生物顕微鏡は全地域で好調に推移し、産業製品は工業用内視鏡の新製品効果や非破壊検査機器の北米を中心とした売上成長により、増収

☑ 営業損益

増収および販管費の効率的なコントロールにより、3Q、3Q累計ともに過去最高の営業利益

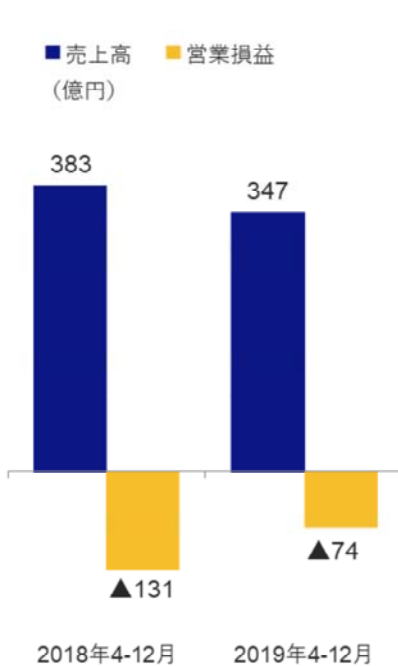
| 単位: 億円 | 第3四半期累計実績 (4-12月) | | | | 第3四半期実績 (10-12月) | | | |
|---------|-------------------|--------|-------|---------|------------------|--------|-------|---------|
| | FY2019 | FY2020 | 前年同期比 | 為替影響調整後 | FY2019 | FY2020 | 前年同期比 | 為替影響調整後 |
| 売上高 | 732 | 766 | +5% | +8% | 259 | 269 | +4% | +8% |
| 営業利益 | 50 | 80 | +62% | +79% | 22 | 26 | +22% | +48% |
| その他の損益* | ▲2 | ▲5 | - | - | 0 | ▲2 | - | - |
| 営業利益率 | 6.8% | 10.5% | | 11.2% | 8.3% | 9.8% | | 11.4% |

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

(スライド11)

- それでは、続いて科学事業です。
- 売上高は前年同期比5%増の766億円、営業利益は前年同期比62%増の80億円と大幅な増益となりました。
- 生物顕微鏡は全地域で好調に推移し、産業製品は工業用内視鏡や非破壊検査機器等が売上を伸ばしたことにより、増収となりました。
- また、営業利益は増収および販管費の効率的なコントロールにより、第3四半期および累計ともに過去最高となりました。

2020年3月期 第3四半期実績 ⑥映像事業



☑ 売上高

厳しい事業環境等に加え、上期は生産拠点再編の影響により新製品の導入がなく、減収。3Qは、新製品効果により増収

☑ 営業損益

前期に計上した生産拠点の再編に伴う費用が今期は発生していないこと、および販管費の効率化により、損失は縮小。3Qは、ミラーレス一眼の新製品導入により粗利が増加し、損益は改善

第3四半期累計実績 (4-12月)

| 単位: 億円 | FY2019 | FY2020 | 前年同期比 | 為替影響調整後 |
|---------|--------|--------|-------|---------|
| 売上高 | 383 | 347 | ▲9% | ▲6% |
| ミラーレス | 282 | 260 | ▲8% | ▲4% |
| コンパクト | 59 | 50 | ▲14% | ▲12% |
| その他 | 43 | 37 | ▲13% | ▲10% |
| 営業損益 | ▲131 | ▲74 | +58億円 | +61億円 |
| その他の損益* | ▲68 | ▲14 | - | - |
| 営業利益率 | - | - | - | - |

第3四半期実績 (10-12月)

| | FY2019 | FY2020 | 前年同期比 | 為替影響調整後 |
|---------|--------|--------|-------|---------|
| 売上高 | 127 | 134 | +6% | +10% |
| ミラーレス | 94 | 107 | +14% | +18% |
| コンパクト | 19 | 15 | ▲17% | ▲14% |
| その他 | 14 | 12 | ▲13% | ▲9% |
| 営業損益 | ▲39 | ▲17 | +22億円 | +21億円 |
| その他の損益* | ▲15 | ▲3 | - | - |
| 営業利益率 | - | - | - | - |

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

(スライド12)

- 続いて映像事業です。
- 売上高は、前年同期比9%減の347億円、営業損益は、74億円の営業損失となりました。
- 厳しい事業環境等に加え、上期は生産拠点再編の影響により新製品の導入がなかったため、減収となりました。
- 前年同期に計上した生産拠点の再編に伴う費用が今期は発生していないことや販管費の効率化等により、損失は縮小したものの、残念ながら想定通りの損益改善には至りませんでした。
- しかしながら、第3四半期だけで見ると、ミラーレス一眼の新製品効果により、6%の増収となり、粗利増に伴い損益も改善しております。
- カメラの市場縮小等、厳しい事業環境は継続していますが、新製品の拡販と販管費の適切なコントロールにより、収益性の改善を図っていきます。

財政状態計算書

- 国際会計基準の新リース基準（IFRS第16号）を適用した影響により、資産、負債ともに増加
- 自己株式の取得により資本は減少

| (単位：億円) | 2019年3月末 | 2019年12月末 | 増減額 | | 2019年3月末 | 2019年12月末 | 増減額 |
|-------------|--------------|--------------|-------------|-----------------|--------------|--------------|-------------|
| 流動資産 | 4,560 | 4,836 | +276 | 流動負債 | 2,875 | 2,815 | ▲60 |
| 棚卸資産 | 1,536 | 1,679 | +142 | 社債及び借入金 | 597 | 562 | ▲35 |
| 非流動資産 | 4,760 | 5,043 | +283 | 非流動負債 | 2,021 | 3,091 | +1,070 |
| 有形固定資産 | 1,769 | 2,055 | +286 | 社債及び借入金 | 1,216 | 2,109 | +893 |
| 無形資産・その他 | 1,979 | 1,989 | +10 | 資本 | 4,424 | 3,973 | ▲451 |
| のれん | 1,012 | 998 | ▲13 | 自己資本比率 | 47.3% | 40.1% | ▲7.2pt |
| 資産合計 | 9,320 | 9,879 | +559 | 負債及び資本合計 | 9,320 | 9,879 | +559 |

有利子負債：2,671（2019年3月末比+858）

（スライド13）

- 12月末の財政状態です。
- 国際会計基準の新リース基準を適用した影響により、資産、負債ともに増加しています。
- また、棚卸資産が142億円増加しましたが、これは主に期末に向けた戦略在庫の構築によるものです。
- 資本は、8月に実施した自己株式の取得により前期末から減少し、3,973億円となりました。
- これにより、自己資本比率は前期末比で7.2ポイント減少し、40.1%となりました。

連結キャッシュフロー計算書

☑ FCF：医療分野を中心とした営業利益の創出により、607億円のプラス

☑ 財務CF：2019年12月に社債を発行

✓ 300億円（利率0.06%、3年）、200億円（利率0.2%、5年）

第3四半期累計実績（4-12月）

| (単位：億円) | 2019年3月期 | 2020年3月期 | 増減 |
|---------------|----------|----------|--------|
| 売上高 | 5,810 | 5,951 | +140 |
| 営業利益 | 206 | 785 | +579 |
| 営業利益率 | 3.5% | 13.2% | +9.7pt |
| 営業キャッシュフロー | 366 | 1,057 | +692 |
| 投資キャッシュフロー | ▲438 | ▲450 | ▲12 |
| フリーキャッシュフロー | ▲73 | 607 | +680 |
| 財務キャッシュフロー | ▲516 | ▲290 | +226 |
| 現金及び現金同等物期末残高 | 1,318 | 1,448 | +131 |
| 減価償却費 | 430 | 505 | +75 |
| 資本的支出 | 453 | 498 | +45 |

(スライド14)

- キャッシュフローの状況です。
- 営業キャッシュフローは、医療分野を中心とした営業利益の創出により、前期比692億円増加の1,057億円となりました。
- 投資キャッシュフローは、医療分野のデモ・ローナー品等の有形固定資産取得による支出等により、450億円のマイナスとなりました。
- 以上により、フリーキャッシュフローは607億円のプラスを確保しております。
- 財務キャッシュフローは、昨年12月に社債等が発行しましたが、自己株式の取得や借入金の返済等により、290億円のマイナスとなりました。
- 今後も、多様な資金調達手段を活用し、医療分野を中心とした成長投資等を優先的に実施していきます。

02 2020年3月期 通期業績見通し

(スライド15)

- 次に通期業績見通しについてご説明申し上げます。

通期見通し ①連結業績

- 1** 一時費用として十二指腸内視鏡対応費用約100億円を織り込むも、第3四半期までの実績を踏まえて、売上高および営業利益を上方修正

| 単位：億円 | 2020年3月期 11月6日公表見通し | 2020年3月期 最新見通し | 増減 | 前回見通し比 | 2019年3月期 通期実績 |
|---|-------------------------|-------------------|------|--------|------------------|
| 売上高 | 1 8,000 | 8,100 | +100 | +1% | 7,939 |
| 売上総利益 (売上総利益率) | 5,090 (63.6%) | 5,090 (62.8%) | - | - | 5,096 (64.2%) |
| 販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率) | 4,130 (51.6%) | 4,100 (50.6%) | ▲30 | ▲1% | 4,375 (55.1%) |
| その他の収益および費用等 | ▲60 | ▲70 | ▲10 | ▲10 | ▲438 |
| 営業利益 (営業利益率) | 1 900 (11.3%) | 920 (11.4%) | +20 | +2% | 283 (3.6%) |
| 税引前利益 (税引前利益率) | 860 (10.8%) | 870 (10.7%) | +10 | +1% | 201 (2.5%) |
| 親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率) | 630 (7.9%) | 640 (7.9%) | +10 | +2% | 81 (1.0%) |
| EPS | 47円 | 48円 | | | |
| 円/USドル | 108円 | 109円 | | | |
| 円/Euro | 121円 | 121円 | | | |
| 円/CYN | 15円 | 16円 | | | |

2020年3月期配当
年間配当10円を予定
(変更なし)

(スライド16)

- 2020年3月期の見通しにつきましては、今回、十二指腸内視鏡の市場対応を行うための費用約100億円を織り込みましたが、第3四半期までの実績を踏まえて、売上高および営業利益を上方修正しております。
- 十二指腸内視鏡の市場対応につきましては、後ほど改めてご説明いたします。
- 為替レートについては、第3四半期の実績と直近の為替動向を反映し、通期で1ドル109円、1ユーロ121円を想定しております。
- 配当につきましては、期初の配当予想を据え置き、2020年3月期の年間配当として引き続き1株当たり2.5円増配の10円を予定しております。

通期見通し ②セグメント別業績

- 1 内視鏡・治療機器・科学： 第3四半期までの進捗を踏まえて、上方修正
 2 映像： 厳しい事業環境等を考慮し、修正
 3 全社消去： Transform Olympusに伴う先行投資により修正

| 単位：億円 | | 2020年3月期 11月6日公表見通し | 2020年3月期 最新見通し | 増減 | 前回見通し比 | |
|-------|------|------------------------|-------------------|-------|--------|-------|
| 内視鏡 | 売上高 | 1 | 4,200 | 4,290 | +90 | +2% |
| | 営業利益 | | 1,050 | 1,100 | +50 | +5% |
| 治療機器 | 売上高 | | 2,170 | 2,200 | +30 | +1% |
| | 営業利益 | | 300 | 310 | +10 | +3% |
| 科学 | 売上高 | | 1,060 | 1,070 | +10 | +1% |
| | 営業利益 | | 110 | 110 | - | - |
| 映像 | 売上高 | 2 | 500 | 470 | ▲30 | ▲6% |
| | 営業利益 | | ▲70 | ▲90 | ▲20 | ▲20億円 |
| その他 | 売上高 | | 70 | 70 | - | - |
| | 営業利益 | | ▲40 | ▲30 | +10 | +10億円 |
| 全社・消去 | 営業利益 | 3 | ▲450 | ▲480 | ▲30 | ▲30億円 |
| 合計 | 売上高 | | 8,000 | 8,100 | +100 | +1% |
| | 営業利益 | | 900 | 920 | +20 | +2% |

(スライド17)

- セグメント別の業績見通しです。
- 内視鏡事業、治療機器事業、科学事業は、第3四半期までの進捗を踏まえて、上方修正しています。
- 映像事業は、厳しい事業環境等を考慮し、売上高、営業利益ともに下方修正しています。
- 全社消去は、Transform Olympusに伴う先行投資を織り込み、修正しています。

十二指腸内視鏡の市場対応

☑ 2020年1月、米国で先端キャップ着脱式十二指腸内視鏡に対する法規制認可を取得

新製品は、洗浄・消毒の更なる容易化を目指し、着脱式のディスポーザブル先端キャップを採用



☑ 先端キャップ固定式の対象製品を自主的に置き換え、リプロセス作業（洗浄・消毒）のより簡便な実施をサポートする先端キャップ着脱式の新型十二指腸内視鏡の早期普及を促進

(スライド18)

- 先ほど、申しあげました当社の十二指腸内視鏡に関する市場対応についてご説明いたします。
- 十二指腸内視鏡につきましては、行政から医療機関へ感染対策に関する注意勧告がなされ、当社も医療機器メーカーとしてさまざまな取り組みを行っております。
- 先端キャップ着脱式の十二指腸内視鏡は、日本と欧州等ではすでに導入済みですが、先月、米国においても、FDAより 510k 認可を取得しました。
- これまでの十二指腸内視鏡についても洗浄性や安全性の確認を行ってきておりますが、先端キャップ固定式の対象製品を自主的に置き換え、洗浄・消毒作業のより簡便な実施をサポートする先端キャップ着脱式の新型十二指腸内視鏡の早期普及を促進してまいります。

次世代消化器内視鏡システム

今後、規制当局の承認が得られた市場から早期の市場導入を進める

病変の発見、鑑別診断、病期診断、処置に革新をもたらす技術により、内視鏡診断・処置の新スタンダードとなる内視鏡システム



1. CADe – Computer-aided detection 2. CADx – Computer-aided diagnosis

発見



CADe¹

- AIによる病変の検出機能による病変の見逃し防止の支援

鑑別診断



広被写界深度

- より広い深度の提供で拡大観察を容易とし、拡大内視鏡検査の普及

CADx²

- リアルタイムでのAIによる診断補助情報の提供

病期診断



拡大内視鏡技術

- 高拡大倍率、精細な画像情報の提供により精密な内視鏡診断

処置



血管可視化技術

- 血管の可視化による内視鏡処置の効率化



3D imaging

- 空間情報の提供による内視鏡処置の効率化とラーニングカーブ短縮

Page 19 2020年3月期 第3四半期 連結決算概況と通期見通し

OLYMPUS

(スライド19)

- 次に、投資家の皆様からの関心が高い次世代消化器内視鏡システムについてご説明します。
- すでに経営戦略で機能等お伝えしていますが、今回のモデルは、画質や操作性等の基本性能の向上を図ることに加え、高い医療価値と高い効率性、経済性の両立を狙った全く新しい独自技術を数多く搭載し、内視鏡医療における新たなスタンダードとなる期待の戦略製品です。
- 今後、規制当局より承認が得られた市場から早期の市場導入を進めてまいります。



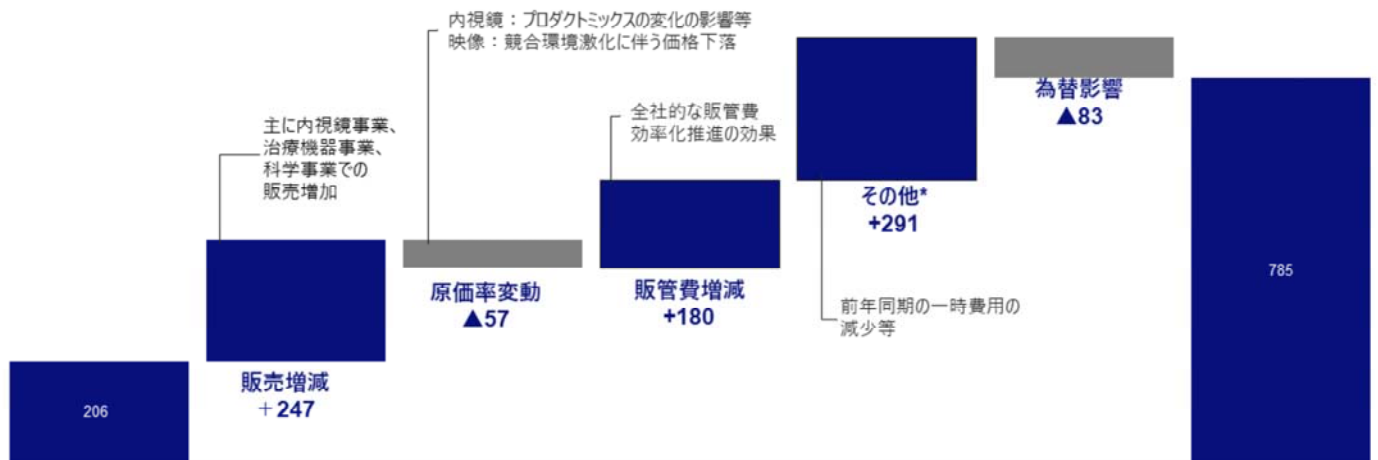
(スライド20)

- 今第3四半期は上期に引き続き過去最高となる営業利益を計上する等、順調な進捗となりました。
- 今年度の残り2ヶ月間も全社一丸となって本日お示した通期の業績見通しの達成に向けて取り組み、経営戦略で掲げた目標である2023年3月期の営業利益率20%の達成につなげてまいりたいと思います。
- 私からの説明は以上です。ありがとうございました。

03 Appendix

参考資料：2020年3月期 第3四半期実績 ①連結営業利益増減要因

第3四半期累計実績（4-12月）

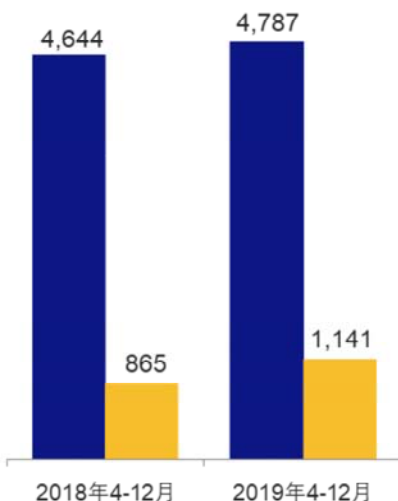


- ※前年同期に発生した主な一時費用
- 証券訴訟の和解金 194億円
 - 米国司法省との司法取引契約締結に伴う費用 97億円
 - 中国生産子会社に対する訴訟の引当金 38億円
 - 中国生産子会社操業停止に伴う費用 60億円

(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています。

参考資料：2020年3月期 第3四半期実績 医療事業

■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



☑ 売上高 中国の高い売上成長を主要因に、過去最高の売上高
(為替影響除き+7%)

☑ 営業利益 全分野（内視鏡・外科・処置具）の増収および販管費の効率化等により、過去最高を更新

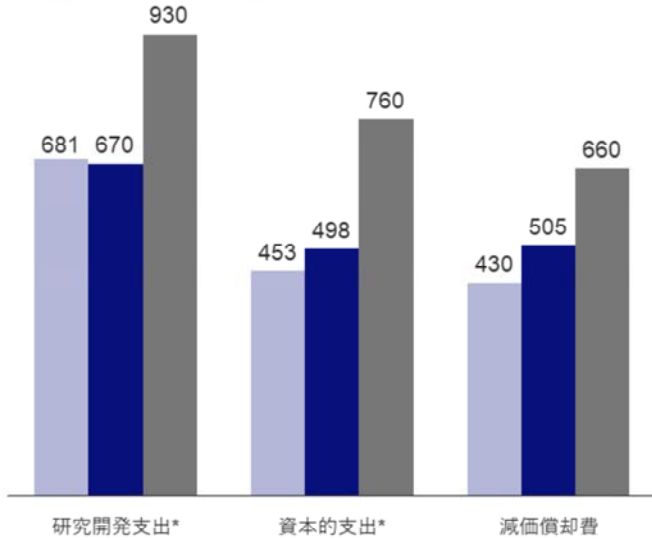
| 単位: 億円 | 第3四半期累計実績 (4-12月) | | | | 第3四半期実績 (10-12月) | | | |
|---------|-------------------|--------|-------|---------|------------------|--------|-------|---------|
| | FY2019 | FY2020 | 前年同期比 | 為替影響調整後 | FY2019 | FY2020 | 前年同期比 | 為替影響調整後 |
| 売上高 | 4,644 | 4,787 | +3% | +7% | 1,588 | 1,639 | +3% | +8% |
| 内視鏡 | 2,478 | 2,582 | +4% | +8% | 838 | 900 | +7% | +12% |
| 外科 | 1,549 | 1,557 | +1% | +4% | 541 | 521 | ▲4% | +1% |
| 処置具 | 618 | 648 | +5% | +8% | 209 | 217 | +4% | +8% |
| 営業利益 | 865 | 1,141 | +32% | +40% | 318 | 391 | +23% | +34% |
| その他の損益* | ▲69 | ▲17 | - | - | 0 | ▲8 | - | - |
| 営業利益率 | 18.6% | 23.8% | | 24.4% | 20.1% | 23.8% | | 24.9% |

* 決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

参考資料：投資等

第3四半期累計実績および通期見通し

(億円) ■ FY2019 3Q累計 ■ FY2020 3Q累計 ■ FY2020 通期見通し



(単位：億円)

| | FY2019 3Q累計 | FY2020 3Q累計 | FY2020 通期見通し |
|---------------------------|----------------|----------------|-----------------|
| 研究開発支出* (a) | 681 | 670 | 930 |
| 開発費資産化 (b) | 67 | 144 | 230 |
| 損益計算書上における 研究開発費 (a-b) | 614 | 526 | 700 |

(単位：億円)

| | FY2019 3Q累計 | FY2020 3Q累計 |
|--------|----------------|----------------|
| 償却費 | 54 | 51 |
| | 2019年9月末 | 2019年12月末 |
| 開発資産残高 | 377 | 422 |

* 研究開発支出および資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています